

令和3年度大阪府立箕面東高等学校「第2回学校運営協議会」報告

【日時】令和3年12月8日（水） 14:00～

【方法】対面式 欠席の方からは電話・メール等で意見聴取

【出席者】

学校運営協議会委員：伊東 義輝（大阪成蹊短期大学）

横谷 さゆり（本校PTA会長）

篠崎 朗（本校同窓会会長）

校長：尾形 政則

事務局：川上 慶次郎（教頭）、末永 惣彦（教頭）、長崎 孝（首席）、

室田 真幸（首席）

報告事項

本校の活動について

10月以降の活動について紹介。

文化祭・芸術鑑賞会・体育祭・修学旅行を開催

文化祭：一般開放はなし。劇・発表・縁日が大半。飲食模擬店はなし。

体育祭：団ごとの入場行進・リレー・ダンス部の発表

前期生徒会による応援団は初の試み。3年生13人。

修学旅行：2年熊本・長崎 本来は韓国だったが、コロナの影響により変更

3年関東 本来は石垣島だったがコロナの影響で変更

コナミ連携：トレーニングルームの改装・マシンの新調

未来の部活事業（経産省実施）民間企業との連携

週2～3回トレーニング指導（現在は野球・サッカー・バスケのみ試行）

フィットネスの授業の中でも、ヨガインストラクター（インド政府公認）

の派遣

最終目標は一般開放。

<質問・意見等>

A委員 コナミはほかの学校もやっているのか？

校長 公立は本校のみ。私学でやっているところはある。

協議事項

令和3年度学校経営計画の取り組みの進捗状況について

(1) 授業の改善について

今年の7月にとった授業アンケートの評価の平均値は3.40、昨年度の3.34を上回っており、全体として授業は順調と言える。

令和4年度より、新学習指導要領による授業が始まる。令和2年度より、本校では大阪府教育センターの協力のもと、授業の改善・評価の改善に取り組み、年3回ずつの教員研修を行ってきた。

11月には研究授業を実施し、それを受けて、12月15日に今年2回目の研修を行う予定。また現在、すべての教科が、新しい評価の観点で、評価を付ける試行をしている。

本校では昨年よりC-learningというクラウドサービスを利用し、スマートフォンを使って授業で意見を出したり、小テストをしたり、課題を配布したりしている。2年目に入って、かなり定着してきたという印象はある。

今回全生徒にタブレットが配られることになったので、このタブレットでgoogleのアプリを使っていくことになる予定。

(2) キャリア教育の取り組みについて

「進路指導」「総合的な探求の時間」「産業社会と人間」等に関する評価は、1月に予定している「学校教育自己診断」の数値ではかる予定。

キャリア教育に関わっては、生徒が自分の将来について具体的に考えていけるように、外部講師を招いた講演や、職場実習等の体験など、具体的な取り組みが必要。コロナウイルス感染症の影響で、このような具体的取組が止まってしまう時期も多いが、今年はなんとか、いろんな取組を復活できたと思っている。

(3) 生徒指導・生徒支援について

コロナウイルス感染症の影響で、学校の様々な活動が中止になるなど、制限を受けている。体育祭については、5月に実施できなかったが、11月に延期して行うことができた。文化祭は、参加者を本校生徒に限定して、なんとか開催することができた。修学旅行についても、何とか実施できました。特に3年生は、昨年度に行くことができなかったが、1年遅れて関東方面に行くことができた。

部活動については加入者が減少している。昨年の部活動加入率は34%、今年は30%程度と、部活動に入る生徒が減っている。その要因の一つは、コロナウイルス感染症。部活動の勧誘を行う時期に学校が休校であった、部活動の対外試合や演奏会等が止まった、そういう要因もあって、部活動はかなり苦戦を続けている。

昨年は生徒会が部活動を応援するパンフレットを作ったが、加入者は増えなかった。部活動で、今年新たに取組んでいることが、「コナミスポーツ(株)」との提携事業。今年の秋からコナミスポーツが最新のトレーニング機器を学校に貸与してくれている。またコナミスポーツからトレーナーが派遣され、いくつかの部活動は指導を受け始めている。

コナミスポーツの協力により、生徒の運動能力が向上し、教員の負担が減るというデータがとれたら、先々につながると期待している。

障がいのある生徒については個別の支援計画・指導計画を作成し、授業・学校生活での支援を進めている。

メイプルカフェについては、昨年よりコロナ対策として、場所を広い社会科教室に移している。一方、飲み物は紙コップに飲み物を入れて提供できず、ペットボトルの飲み物を提供するといった苦しい運営が続いている。利用している生徒は3年生が多かったのだが、最近では2年生の利用も増えてきている。1年生の利用が少ないのが課題。運営の面では、フェアロードさんが、箕面市の社協との連携を模索している。

(4) 広報活動について

宣伝活動の面では、宣伝用の映像に加えて、今年は公式インスタグラムの開設を行ってみた。

学校のホームページは、全面的に作り変えた。文字量を減らし、写真等を増やし、イメージで訴えるようにした。

本校の活動を紹介する「みのひがレター」について、昨年度は各学校30部程度を送っていたが、今年度は中学3年生全員に配ろうと考え、印刷枚数を増やした。

オープンスクールの参加状況は、9月の第1回オープンスクールは、コロナ休校の影響で中止になった。10月の第2回オープンスクールは中学生107人、11月の第3回オープンスクールは中学生95人という状況。

宣伝については、思いつくことは全部やっているつもり。ただ、志願者を増やすという点では、たいへん苦戦している。

(5) 教職員の働き方改革について

教員の働き方改革という点では、どの学校も厳しい状況にある。昨年よりコロナウイルス感染症の影響で、様々な業務が増えている。また、同時並行で進んでいるGIGAスクール構想、一人一台タブレットの課題についても、新しい取り組みで、当面は教員の業務量を増やすことになる。

その中でも、ここまでのところ、教員全体の超過勤務時間は、昨年より下回るのではないかと思う。(コロナ休校の影響もあり、今後は増えるかもしれない)

職員会議で、業務の削減について検討を呼びかける予定。

<質問・意見等>

B委員 学力向上の要因は？

校長 ベネッセテストによって基礎学力が身につけていることがわかった。

- B 委員 中学生・保護者にアピールになるのではないか。強調していくべき。
- C 委員 インスタグラムの運営は難しくないか。評価・効果が見えにくいのではないか。
入学した生徒に、オープンスクール・インスタグラム・みのひがレターなどで何が箕面東を受験するきっかけとなったかアンケートとるべきではないか。
- A 委員 コナミは将来的にどこを目指しているのか広報していくべきではないか。
宣伝・発信の必要がある。
- D 委員 めぎす生徒像として特に個性や多様性を認め様々な人と協働できる生徒という点は、ソーシャルインクルージョンという多様な人々が共に豊かに生きるとい
う社会通念と通じるものがある。そのために地域の人々と繋がる場を意識的に
開放したり、地域社会に出て体験を重ねたりする取り組みがあることは生徒に
とって有意義な学びの経験になると思う。
外部との調整や交渉など先生への負担が大きくなり配慮も必要かと思うが、
是非継続していただきたいと思う。
- E 委員 分掌総括のフィードバックができていないのか。全校的に共有できているのか。
箕面東高校の将来のビジョンをはっきりと示し、箕面市との会話を頻繁に行い、
地域連携を進めて行くべき。市長ともアポをとり直接会話することはもちろん、
教育長、前教育長等、教育委員会の幹部ともこちらから積極的に話す機会を持つ
べきではないか。定員を満たすことも重要であるが、もっと広い視野で箕面市と
の連携を進めて行く方法を探るべきである。
また箕面東高校の重点化対策もはっきりと示してほしい。教育計画にとらわれ
すぎず、転退学や部活動入部率の数字の推移をしっかりと見極めて重点的対策を
打ち出してほしい。
- ・その他
- B 委員 補習をもっとやってほしい。
- D 委員 コロナ禍の現状が2年近く続く中、年間行事も少しずつ実施する方向に向かっ
ていることはよい傾向だ。それでもまだまだ登校を控えて自宅待機している生
徒もいると伺っている。次の段階で学校への登校が壁にならないようにする工
夫が必要だ。